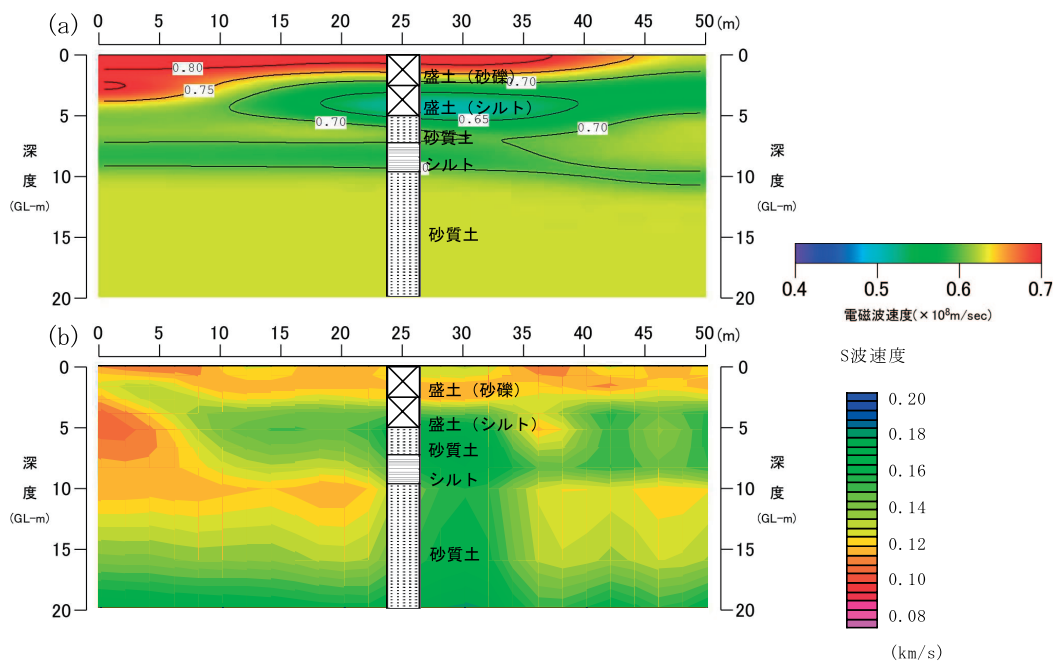


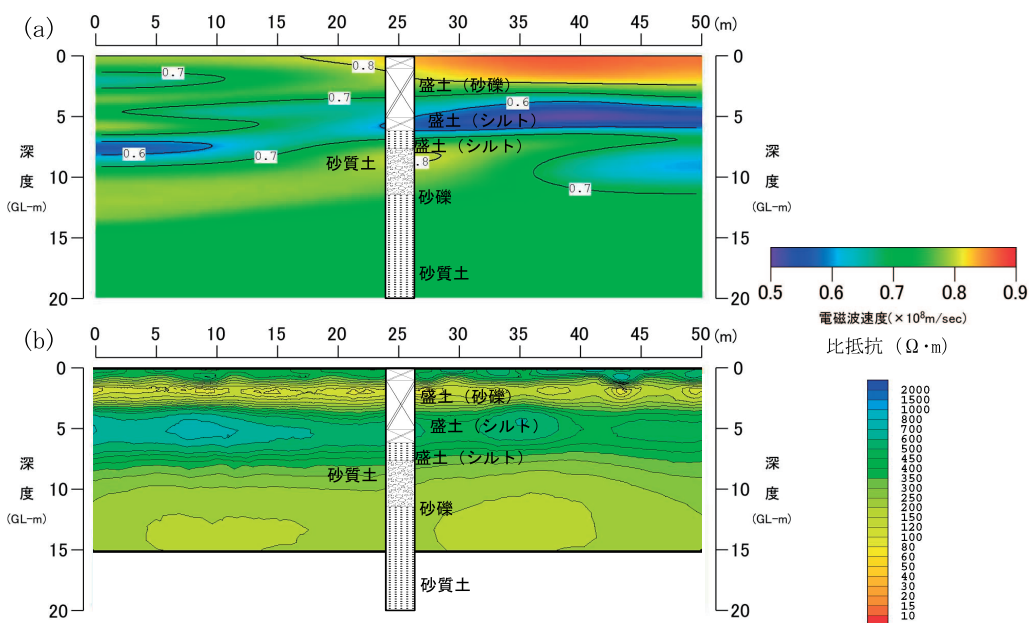
# 連続波地中レーダ探査による土質地盤探査

＜鈴木 敬一・小松 幹雄＞

連続波地中レーダは、一般的な地中レーダよりも数倍の探査深度がある。この手法で求められる電磁波速度構造によって、土質地盤の状況がイメージされる(本文「土質試料の電磁気特性測定」参照)。



第1図 土質地盤探査における(a)連続波地中レーダ探査による電磁波速度構造解析結果と(b)表面波探査によるS波速度構造解析結果の比較。電磁波速度が大きくなるとS波速度も大きくなっている。これらの速度の違いは、それぞれの土質の違いとしてとらえられている。



第2図 土質地盤探査における(a)連続波地中レーダ探査による電磁波速度構造解析結果と(b)比抵抗2次元探査による比抵抗構造解析結果の比較。電磁波速度が大きくなると比抵抗は小さくなっている。連続波レーダ探査の速度構造は、ボーリング柱状図による地質断面図に近いイメージである。